

古文書を読む会学習記録

作成日 平成27年 6月21日

開催日	平成27年 6月11日	時 間	10:00~12:00
場 所	金沢公会堂	出席人数	13名
講 師	真田 雅行氏	作成者	兒玉 仙三
テーマ	第1学習 永嶋家文書⑥		
概 要	<p>寺院梵鐘取調書上帳 (安政3年) (幕末の異国船度々の往来に備えての大砲等の武器製作資材確保の為の事前調査)</p> <p>御触書</p> <p>* 梵鐘之儀ニ付御達書</p> <p>(これは伊勢守殿より伺済の趣を以て書いたもの)</p> <p>諸国の寺院梵鐘の儀に付、今般御触があつた。御代官御預所にて、その支配所並びに最寄一万石以下の知行の寺院、並びにその寺社領の分共を呼出し、更にこれらに付属しない寺院等も呼出し、別紙「心得方書取」の趣旨に従い、場合により檀家惣代の者共をも呼出し、本寺・末寺を糺した上、本寺の分は梵鐘の有無、並びに本山又は本寺・小本寺等訳、其の外、国・郡・村、宗旨、寺号を書き記した上で帰寺を申付ける。末寺の内、梵鐘無い寺も同様に取計うこと。残りの末寺の分は、古来の銘器、現時の鐘に用いていると申立っている物は勿論、由緒その外兼て供出難渋を申立っている類は除き、全て異議なく梵鐘差出すべしと定められた分については追って受取の者を差し遣わす。</p> <p>梵鐘を差出すと申した寺へは請書を申付け、其の外の銘器・時の鐘等難渋を申立っている寺院へは追って沙汰ある旨申し渡すこと。一同帰寺申付けの後、請書の写しを添え、惣寺院何ヶ寺、内本寺何ヶ寺、鐘幾つ等々、また何ヶ寺は請書差出、何ヶ寺は銘器・時の鐘、その外供出難渋を申す請書を直ちに長門守方へ差出すこと。銘器・難渋の由等申立ての分は別紙に纏め、取計らい方の儀に付、これまた長門守方へ申出、指図を仰ぐこと。</p> <p>末寺他の寺院についても調べ落ちの無い様取計らうべく、御代官御預所役人へ申し渡すこと。このための、別紙「心得方書取」並びに拙者共の「諸宗触頭共へ諭書」も手引きとして参照のこと。(安政三年十月)</p> <p>(1)「諸宗触頭共へ諭書」 (2)「心得方書取」</p> <p>(この2件は、上記本文の御達し書の細則に相当するもので内容省略)</p>		
次回予定	平成27年6月25日	10:00~12:00	於:金沢公会堂 第二学習 ジョン万次郎帰朝記事⑥